

平成28年度香川大学大学院修了式 学長告辞

早春の佳き日を迎え、本日、ここに多くの関係者の出席のもとに平成28年度香川大学大学院の修了式が行われることは、我々にとって大きな喜びであります。

本日、香川大学大学院から学位を授与された271名の皆さん、誠におめでとうございませう。また、皆さんをこれまで支えてこられたご家族や関係者の皆様方にも、心からお慶びを申し上げます。

新たに学位を授与された方は、博士の学位が26名、修士の学位が195名、専門職学位が50名です。皆さんの日々の学修と研究生活を支えてこられた指導教員、関係の皆さんにも心から敬意を表します。

皆さんは、今日のこの日を迎えるまで、自らの学修や研究に日々研鑽を続けてこられたことと思います。時には苦しく、つらい日もあったかもしれませんが、しかし、今、皆さんのすがすがしい顔を拝見すると、いかにも自信に満ちあふれており、充実した大学院生活を送ってこられたのだと、確信しているところです。

修了生のなかには海外からの留学生26名が含まれています。留学生にとっては、日本の文化や習慣への適応という課題を乗り越えての成果であり、その努力は並大抵のものではなく、改めて敬意と祝意を表したいと思ひます。

皆さんは、4月から新たなステージを歩み始めます。新たな環境でこれまで経験したことがないような困難に直面することがあるかもしれません。

しかし、どのような困難に直面しても恐れる必要はありません。なぜならば、皆さんは、自ら選んだテーマに日々全力で取り組み、数々の失敗を乗り越えひとつの真理にたどり着いたというかけがえのない経験があるからです。

皆さんが、この大学院で身につけた、物事の意義や本質を見極める探究力、物事を論理的に調査し本質を明らかにする解析力、研究等で得られた成果を論文等に取り纏める表現力などは、社会のどのような場面、どのような分野においても困難を乗り越えて進んでいくための基礎となるものなのです。

今日の科学技術の発達はめざましく、スマートフォンやタブレット端末さえあれば、あらゆる情報が簡単に手に入れられるようになっていきます。また、近い将来、自動運転車が実用化されると言われており、我々の生活は益々便利に快適になってきています。そして、人工知能は2045年には人間の知能を超えるとも言われており、沢山の知識や経験が必要とされる専門的な職業でさえ、近い将来人工知能に置き換わるという予測もあります。

しかし、便利さ、快適さを追い求めるあまり、何か大切なモノを失っているような気がしてなりません。人工知能の進化は我々にどのようなことをもたらすのでしょうか。

このような快適さ・便利さを追い求める社会において、修士、博士、専門職の学位を持つ、研究者あるいは高度専門職業人としての皆さんにはどのようなことが求められるのでしょうか。

時代の変化を読み取る力、変化を恐れぬ姿勢、自ら

の考えにとらわれない柔軟な発想など、時代を先取りし、イノベーションを起こす力はもちろん大切です。しかし、本当に大切なことは、アインシュタインの言葉に表されているのではないのでしょうか。「過去から学び、今日のために生き、未来に対して希望をもつ。大切なことは、何も疑問を持たない状態に陥らないことである。」「自分自身の目で見、自分自身の心で感じる人は、とても少ない。」

是非、皆さんは、過去の先人達から受け継がれてきた歴史や教訓、大学院での学修や研究を通じて身につけた様々な知識や経験を生かし、未来に対する希望を胸に秘め、自分自身で考え、行動してください。

本日、香川大学大学院において学位を授与された皆さんが、夢と希望と大きな自信を持って、このグローバルな21世紀の社会で活躍されることを心から期待し、私の告辞といたします。

平成29年3月24日

香川大学長 長尾 省吾